

人 気 モ デ ル

莉 奈 二 十 三 歳

第五卷 恥ずかしすぎる野外露出撮影

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 教壇で恥辱のポーズ

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 W e b 連載小説

※ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 著作権について

「人気モデル 莉奈二十三歳 第五巻 恥ずかしすぎる野外露出撮影」(以下本書と表記する)の著作権は「海老沢薫」にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可した場合を除き、本書の一部、または全部を、あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー)により複製、流用、転載、転売することを固く禁じます。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第61条などの罰則がありますのでご注意ください。
い。

■ まえがき

後輩達の前で講演するため数年ぶりに母校の中学を訪れた人気カリスマモデルの緒方莉奈は、羞恥に顔を歪めながら教壇に立っていた。

生徒の要望で一糸纏わぬ姿になった莉奈は自分でも見たことのない恥部を後輩達に披露するため、黒板の前で恥辱のポーズを強いられる。いたのだ。

「ああん、もう許して・・・」

自らの手で尻肉を左右に開き悶える人気モデルに生徒達はさらに容赦ない命令を浴びせ、莉奈は卑猥な尻振りダンスまで演じなければならなかった。

やがて、恥辱のダンスを許された莉奈であったが、生徒達はまた新たな屈辱の要求をした。恩師の平岡によって一糸纏わぬ姿のまま黒板に磔にされてしまう。

「これでよしと！それじゃあ今から緒方さんの体を触りたい人は前に来て一列に並びなさい」

い！
担任の平岡が大きな声で生徒達に呼び掛ける
と、クラスの生徒全員が席を立ち上がり、莉
奈の前に一列に並んだ。
「あぁん、やめて・・・」
剥き出しの体を女子生徒達に好き放題に弄ら
れた人気モデルの莉奈は、黒板に背中を何度
も打ちつけながら悶え狂った。
そうして、クラスの半分にあたる二十人ほ
どの生徒達が莉奈の体を触り終えた頃、莉奈
は快感にグッタリと項垂れ、その白い肌には
無数の赤い手形が付いていた。
すると、莉奈の前に気の強そうな一人の女
子生徒が現れ、担任の平岡に問い掛けた。
「先生、アソコ触っても大丈夫ですか？」
思いがけない提案を受けた担任の平岡は意味
深な笑みを浮かべると、あっさりとそれを認
めたのだった。
「いやあっ、それはダメ！」
自らの秘部に手を伸ばそうとする女子生徒に

対し、莉奈は必死に抵抗しようとするが、黒板に磔にされていては逃れることもできず、人氣カリスマモデルは後輩達の見ている前で底なしの羞恥地獄へ堕ちていくのだった。

■ 第一章 教壇で恥辱のポーズ

母校の中学に凱旋した人気モデルの緒方莉奈は、自らを貶める脅迫者の命令によって、恩師や在校生達が見守る講堂のステージで恥辱に喘ぐことになった。そして、恩師の平岡が担任するクラスで特別授業を行うことになった。莉奈は、後輩達の要望でストリップを演じる羽目になり、羞恥に喘ぎながら教壇で素っ裸になった莉奈は、生徒達に向かってお尻を突き出しながら顔を向けるという何とも屈辱的なポーズを取らされたのだった。

さらに、それだけでは満足しない生徒や恩師の平岡に紅蕾まで見せるよう命じられた莉奈は、両手で尻肉を掴むと、それをゆっくりと左右に開いていった。

「キャット、莉奈ちゃんのお尻の穴丸見え！」

「まさか本当に見せるなんて信じられない！」

「幾ら何でも変態過ぎい！」

「莉奈ちゃん、後輩にお尻の穴まで見せて恥ずかしいんですかぁ！」

「莉奈ちゃん、お尻の穴がヒクヒクしてるんだけどへ笑～」

生徒達は、莉奈の真っ赤に染まった顔と晒された紅薔を交互に見比べながら、人気モデルの先輩を言葉責めにして楽しんだ。

「あぁん、もう許して・・・」

莉奈は自らの手で尻肉を大きく開き紅薔を晒しながら、同時に後輩達に顔まで見せなければいけない屈辱に激しく悶えた。

視界に映る中学生の彼女達は、皆ギラギラした好奇の視線で自らの紅薔を見つめ、同時に嘲笑うかのような表情で自分の顔を眺めているのが莉奈にはとても辛く感じられた。学校の先輩でもある憧れの人気モデルが教室で素っ裸になり、自らの手でお尻の割れ目を開いて紅薔を晒す姿は、中学生の女子達にとつてはあまりに衝撃的過ぎる光景であつた。

「莉奈ちゃん、そのままお尻を振ってみてえ

生徒の一人がそう声を掛けると、莉奈は苦悶
 の表情を浮かべながら、ゆっくりとお尻を左
 右に振り始めたのだった。
 「ヤダあ、恥ずかしい！」
 「お尻の穴見せびらかしながら踊るなんて最
 低！」
 「こんな変態に憧れていたなんてガツカリだ
 わ」
 「莉奈ちゃん、エロ過ぎい！」
 中学生の彼女達は人気モデルが見せるあまり
 に卑猥な尻振りダンスにすっかり幻滅してい
 る様子だった。
 ああん、恥ずかしい・・・お願い、もう許
 して・・・。後輩達の辛らつな言葉を浴びた
 莉奈は激しい羞恥に悶えながら尻を振り続け
 た。
 「緒方さん、もっと激しく振りなさい！」
 莉奈のお尻の振り方がだんだん弱くなつてく
 ると、教室の一番後ろから様子を見ていた恩

師の平岡が大きな声で怒鳴りつけた。
「は、はい、すみません。・・。」
教室に緊張が走り、平岡の物凄い剣幕に怯えた莉奈は震える声でそう答えると、恥ずかしさを懸命に堪えてお尻を左右に大きく振り乱した。
担任の怒鳴り声に怯えた生徒達は急に静まり返り、人気モデルが見せる卑猥な尻振りダンスを笑いを必死に堪えながら、じつくりと鑑賞していた。
「緒方さん、あなたカリスマモデルなんでしょ。だったら、そんな辛そうな顔してないでちゃんと言ったと笑顔でやりなさい！」
再び怒鳴り声を上げた平岡は、なんと莉奈に笑顔をみせながら尻振りダンスをするよう命じたのだった。
「ああん、そんな。・・。」
莉奈は恩師のあまりに酷い命令に全身を震わせた。
「ほら、さつさと笑顔をみせなさい！」

平岡の容赦ない命令に生徒達は心の中でほくそ笑み、卑猥な尻振りダンスを続ける人気モデルの顔をマジマジと眺めた。
而して、莉奈はお尻を振りながら生徒達に向かつて引きつった笑みを浮かべたのだった。「そんなんじゃないやダメよ！もつとちゃんと笑いなさい！」
平岡が厳しい口調でさらに命じると、莉奈は死ぬ思いで生徒達に笑いかけた。
「キャッー」
莉奈が尻振りダンスをしながら白い歯を見せて笑顔を浮かべると、生徒達の誰からともなく悲鳴が轟き、皆、口に両手を当てて驚愕の表情を浮かべた。
自らの手で尻の割れ目を開いて紅蕾を見せびらかしながら、お尻を振り笑顔を浮かべる姿は、誰がどう見てもただの変態女にしか見えなかった。
憧れの人気モデルの堕ちた姿に生徒達はもはや幻滅を通り越して、面白い見世物でも見るかのやうに目をギラギラと輝

かせた。
「みんな、これがアナタ達の憧れていた先輩
の本当の姿よ。よく見ておきなさい！　こんな
大人にだけは絶対になっちゃダメよ！」
平岡がクラス生徒全員にそう呼び掛けると
生徒達は小さく頷いて見せた。
　　ああん、もうこんなイヤ・・。莉奈は
どうしようもない絶望感に打ち拉がれながら
引きつった作り笑いを浮かべ、尻を振り続け
た。緒方さん、後輩達の前でもっと恥を掻け
ばいいわ・・。そして何処までも堕ちていく
のよ。平岡は心の中でそう呟くと、暫くの間
莉奈の卑猥過ぎる尻振りダンスを生徒達と共
に満足気な表情を浮かべ鑑賞した。

　　莉奈が後輩達の前で尻振りダンスを始めて
から五分以上が過ぎると、その体にはびっし
りとした汗が滴り、尻を振り続けているせいか
あるいは激しい羞恥のせいなのか分からなか
ったが、半開きになった口元からは絶え間な

く荒い息が漏れ、莉奈は軽い目眩を覚えていた。
中学生の生徒達は、発情したメス犬の如く尻を振り続ける莉奈の姿を飽きることなく鑑賞し、中には涎を垂らしている者までいた。「はい、それじゃあ緒方さん、もう止めていいわ！」
平岡がようやく声を掛けると、莉奈はお尻を振るのを止め、両手を尻肉から離してグッタリとその場に項垂れた。
「みんな、次は緒方さんにどうしてもらいたいかしら」
平岡が間髪入れずに生徒達に問い掛けると、一人の女子生徒が手を挙げた。
「せっかくなんで、人気モデルの莉奈さんの体を触らせててもらいたいんですけど・・・ダメですか？」
女子生徒は、担任の平岡の顔色を窺うように恐る恐る尋ねた。
「うーん、面白そうね。いいわよ」

なんと平岡は莉奈の了解をとることもなく、
あつさりと生徒の提案を受け入れたのだった。
「そんなの酷い・・・」
莉奈は、後輩の恐るべき提案に怯え、恩師の
ことを心から恨んだ。
そうして、教室の一番後ろに立っていた平
岡は生徒達の机の間を歩いて莉奈の元へと近
づいた。
「緒方さん、そういう事だからちよつと向こ
うを向いて両手を頭の後ろで組んでくれるか
しら」
平岡がそう命じると、莉奈は訳も分からない
まま恩師に背を向け両手を頭の後ろで組んで
見せた。
「じつとしているのよ」
平岡はそう言つて、スカートのポケットから
大きめのハンカチを取り出すと、それを莉奈
の両手首に巻き付けて縛り上げたのだった。
「キャッ、いやぁぁん」
莉奈は、恩師の思いがけない行為に驚き、慌

てて逃れようとしたが、すぐに最前列の席に座っていた女子生徒達に体を抑えられ、気がつけば両手首を頭の後ろで縛られた恰好で教壇に立っていた。

「それじゃあ、アナタ達ちよつと手伝ってくれる」

平岡は莉奈の体を抑えている女子生徒達に命じ、莉奈を黒板の中央に背を向けて立たせるのと、教卓の中にあつた紐で莉奈の手首を縛るハンカチと黒板の上にあるフックを結んだのだつた。

「ああっ、いやああん」

黒板の中央に両手首を縛られた恰好で磔にされてしまった莉奈は恥ずかしさと恐怖に喘いだ。

「これでよしと！それじゃあ今から緒方さん

の体を触りたい人は前に来て一列に並びなさい！」

平岡が大きな声で呼び掛けると、生徒達は预期せぬ展開に大はしゃぎして、次々と席を立て

ち上がり、莉奈の前に一列に並んだのだった。
「そんな・・・」
莉奈は、目の前に並ぶ女子生徒達の好奇に満ちた眼差しが恐くて仕方なかった。
「お願い、馬鹿な事はやめて！」
莉奈は必死に訴えかけたが、興奮した女子生徒達は羞恥に悶える人気モデルの姿を意味深な笑みを浮かべて眺めるだけで、誰も莉奈の気持ちなど聞き入れようとはしなかった。

■ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 国民のペットへと堕ちていくヒロイン 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 女神の憂鬱 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 女性教諭の前代未聞の不祥事 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>